

口々に話し合いました。

消きえのこる 雪の明りに 朝出して

春の日長く なほも思ほゆ

(消え残った雪のあかりを頼たのりに早朝出発した)

こんなに長く歩けたのは春になって日が長くなったからだと思われる)

3月10日

穏おだやかな朝を迎むかえ、出発しました。ここから川を南岸に沿って行くか、北岸に行くかがなかなか

決められないので、戯れに

ふミ分て 越こべきかたは 何所いどことも

いざ白雪しらゆきの 山のかけ道

(私たちが踏ふみ分け、越えていくべき道がどの方向であろうとも

さあ、白い雪が降り積もる山の崖道へと踏み出そう)

と口ずさみながら900メートルほど下ると、北岸に広い平原が広がっているのを見えました。これならば人里が近いはずだと思い、進んでいくと、網目あみめのように獣道けものみちがあり、そこを楽々と6キロ余り下つていき、小川のヒタルンナイを過ぎ、さらに4キロほどで美馬牛びばうしという小川、さらに3.2キロほどで札的さつてき川に到着しました。この辺りは鹿がたくさんいて、逃にげる様子がまるで蜘蛛くもの子を散ちらすようです。そこから4キロほど先は谷地やちになり、約1キロ行くと、川幅50メートルほどある十勝川の本流に出ました。

雪解けで増水した川の水はどうとうと大きな音を立てて流れ、矢のように早い激流げきりゅうは泥どろのような色をしています。向こう岸を眺ながめると、ものすごく高く切り立った険しい岩壁いわかべの中ほどに、深そうな洞穴ほらあなが1つ見えました。それは鬼おにが斧おのをふるったかと思われるほど、岩いが尖とがっており、ギザギザの岩壁は鬼の顔のようにも見えるところや、帯おびを折りたたんだように見える場所もあります。